

# 令和2年度学校評価アンケート（後期） 結果と分析まとめ

R03.1.7 教頭

## 1 提出数と割合

	対象人数	提出数	提出の割合	自由記述
前期保護者	世帯数 53	37	69.8%	3人
後期保護者	世帯数 53	52	98.1%	4人
児童(4～6年)※	37	36	97.3%	-----
職員	13	13	100%	-----

※児童の対象は、質問の意味を理解し、回答ができると判断できる学年・クラスの児童とした。

※職員自由記述は、アンケートではなく、「重点目標のふりかえり」への記述に一本化したため、アンケートには記入しなかった。

今回は、97.3%の家庭にて回答をいただきました。たいへん高い提出率でした。一人でも多くの方のご意見を教育活動の改善に反映させていきたいと切に考えております。ご多用の中、ご協力ありがとうございました。

## 2 アンケートの集計（別紙）

### 3 成果が表れた項目

#### ◇1「子どもたちの学びたいという思いを大切に、友達と考えを伝えあうことで共感できる場面を作り、考えを深めようと努めている。」

一見すると、「1 十分」と答えた人数は前期よりわずかに下がっているのですが、成果が不十分に見えますが、「3 やや不十分」「4 不十分」と答えた人数が0%というのは、大きな成果と捉えてよいかと考えられます。

本年度は、年間を通して水曜日の業前活動「お話タイム」の時間の確保に努めてきました。「主体的で対話的で深い学びの実現」を掲げる新学習指導要領の本格的なスタートの年、「伝え合う」活動を大切にするためです。少人数の強みを生かし、教室にいる全員が主体的に話し合いに参加することができたことを評価していただいたことと捉えております。

話し合いの機会をたくさんもつことができましたが、そのことがすぐに「考えを深める」ところに結びつかなかった点が、「1 十分」という回答が伸びなかった原因ではないかと分析します。この点については、課題として改善点を見つけるよう努めていきます。

#### ◇6「体育的な行事(運動会・マラソン大会等)や青空タイムの設定などで外遊びの奨励を通して、子どもたちの健康な体づくりに力を注いでいる。」

前期は、2か月の休校があり、体力の強化という点では不十分であったということを差し引いても、後期の数値は驚異的な上昇です。「1 十分」「2 おおむね」の数は、実に前期の1.7倍になっています。

マラソン大会にて、全校児童一人も欠けることなく完走できたということは、何よりも素晴らしい成果でした。本校では、感染症対策の中でも、子どもたちが安全に体を動かすことが

できるように方法を考え、実行してきました。

- ・木曜日の35分休み：青空タイムを確保（昨年度より実施）
- ・朝の駆け足，なわとび，運動会の練習の前に5分間の健康観察の時間を確保
- ・密にならないように活動時間を分けた運動場，ホタピカン(体育館)の開放
- ・安全に配慮できるよう，長休みの当番職員見守り

こうした取り組みが，自粛期間の間に高まった「体を動かしたい」という気持ちとうまく重なり，すばらしい成果を挙げることができたと考えられます。

#### ◇9「ホームページでの学習活動の紹介や校長室だより「嵩山塾だより」，インターネット写真閲覧，学級通信等の情報発信に努め，家庭や地域に子どもたちの学びの姿を伝えようと努めている。」

自粛期間中は，ホームページやメールなどでできる限りの情報発信に努め，前期は，成果を認めていただきましたが，やむを得ない事情とは言え，メール広報を多用し過ぎたことを反省し，後期はメール発信を最小限にするよう努めてきました。こうした中でこの項目を評価していただいた理由は，主に下記のことだと思われまます。

- ・リアルタイムでの「嵩山塾だより」の発行
- ・ホームページの「日々のようす」の毎日更新
- ・イベントの前後や学習の節目での子どもたちの様子を綴った通信の発行

今後もこうした取り組みを続けていきたいと思ひます。

#### ◇12「お子さんは，家族や地域の方に挨拶をしていますか。」

周囲の人に自分から大きな声で挨拶するというのは，子どもたちにとっては大きな抵抗があるものです。朝「おはようございます」とはっきり言える子が増えてきたことは，地域の方々毎朝登校を見守り，声をかけてくれたおかげだと思ひます。学校でも校長をはじめ，職員が通学途中の子どもたちに毎朝声をかけています。

特に6年生は，最上学年として自覚をもち，「自分が見本になるんだ」という強い使命感の芽生えを感じました。6年生が大きな声で挨拶できる通学班は，下級生も大きな声であいさつできるようになります。こうした前向きな気持ちの相互作用がうまく回っているように感じられます。今後も，こうした習慣が定着していくことを願っております。

### 4 課題が表れた項目

#### ◆2「地域の教育素材をもとにした実体験を大切に，感性や人間性を育み，体験を言葉にすることで言語活用能力を養っている。」

#### ◆10「地域の伝統や自然環境を活かした教育活動を推し進め，嵩山の「人」，「もの」，「こと」を教材とした学びを大切に，地域とともに生きる豊かな心の育成を図っている。」

ともに，前期の結果と比べると大きく成果を上げたように感じられますが，自粛期間で，体験活動も人とのふれあいも大きな制限があった前期と比較すると，結果がよくなるのは当然です。昨年度のデータと比較すると，「1十分」の割合が少なくなっています。

本年度は，2では，体験を言語に結びつけることで学習を深めようとし，10では，人とのふれあいの中で豊かな心の育成をねらいとしています。ともにコロナ渦では通常よりも制限が多い項目です。地域の素材の活用や人との交流は，本校の特色を生かした教育活動の生命線とも呼ぶべきものです。コロナの時代の先を見据え，こうした学習素材との新たな関わり方を考えていくべきかと思ひます。

#### ◆8「安全教育を通して，自らの命を自ら守ることができる知識・実践力を育てると同時に，子どもたちが

### **安心して生活できる安全な環境づくりに努めている。」**

本年度より本格的にエアコンの使用が可能になりました。昨年度までは、熱中症対策を声高に叫ばなければなりませんでした。この点に関しては少し余裕ができてきました。そういう意味で、昨年度よりも細かな指導をする必要がなくなった分、印象が薄くなった可能性があります。

また、5月末に予定していた防災に関する学習や、6月に予定していた健全育成の講演会も中止となってしまったため、印象に残る取り組みがなされてないのは事実です。

目前の課題はコロナ対策です。担任は、毎日教室の消毒に時間を費やし、トイレの除菌・消毒は、当番活動で職員が毎日行っています。「安全な環境づくり」に日々努力をしていますが、子どもたちが「自らの命を守る」ための手だてとしては、不十分であったかも知れません。

コロナ禍が続く限り、ソーシャルディスタンスや手指消毒の重要性を伝え、感染症防止に努めることと、そうした取り組みが「差別・偏見」といった、人として絶対に守らなければならないことに結びついていくという事実を伝えていく手だてを模索したいと考えています。

### **◆14「お子さんは、朝ご飯をしっかりとったり、早寝早起きをしたりするなど生活習慣ができていますか。」**

やや違和感があるのは、この項目と関連のある、7「生活点検「スマイルチャレンジ」やメディアコントロールを通して、自らの生活を見直し、健康的に改善していこうとする態度を育んでいる。」は、昨年度、前期と比較するとよい数値になっている点です。このことを文面通りに解釈すると、「学校では取り組んでいるが、子どもたちの実際の生活は十分には改善されていない」ということになります。

メディアコントロールについて「目標を低く設定すれば簡単に目標が達成できてしまうので、意味がないのでは」というご意見もありました。実際に、春先の自粛期間では、ゲーム三昧という子も珍しくなかったようです。

コロナ禍をきっかけに、テレワークの普及やインターネットの環境改善が加速しました。学校でもこの春から GIGA スクールが始動し、タブレット端末が全員に配付される予定です。「タブレット」＝「娯楽」という考え方は過去のものになります。そうした中で、メディアとの適度な距離感を保ち、自らの健康を維持できる生活習慣のスタイルを模索しなければなりません。メディアとの付き合い方が、子どもたちの生活リズムに大きな影響を及ぼす以上、避けて通ることができない課題と言えます。

コロナ禍の先にある人々の生活スタイルの変化に対応し、めざす「健康的な生活」のあるべき姿を見据え、手だてを考えなければならないということで、この課題については、じっくり時間をかけて方策を考えていかなければならない課題であると分析します。

### **◆15「お子さんは、家庭学習の習慣が身についていますか。」**

例年、全質問中最も数値が上がらない項目の一つです。特に今回は、「1 十分」と答えた家庭が 2 割程度でした。つまり 8 割近くの家庭で、「十分ではない」と判断しているということです。

自粛期間や部活動の縮小、廃止等、子どもたちは家庭で過ごす時間が確実に長くなっています。こうした時間をどのように過ごすか、今後の家庭学習のあり方がどうあるべきかを、一言で述べるのはとても難しいことです。

ひと昔前は、学校で習ったことを家でおさらいをするため、ドリル的な学習を「宿題」という形で行うというのが家庭学習の一般的なスタイルであったと思います。計算練習や漢字の書き取り、用語の暗記等がその代表的なものでした。もちろんこれらの学習は、今もそれなり

に必要なものに違いはありません。子どもたちにとっては、どちらかという「つらい」学習であったかも知れません。

この度の学習指導要領では、以前「関心・意欲・態度」と表していたものを「学びに向かう力」と呼んでいます。知識や技能、表現力や判断力と同等に、「自ら課題を見つける」力が必要であるという意味があるかと思えます。

長くなった家庭での生活の中で、子どもたちがどのように自らの課題を見つけ、実行していくかということ、家庭と学校でどうサポートしていくか、社会全体が真剣に考えていかなければならない時代がきています。

本校でも、どのような形で家庭学習を価値あるものにするかを考え、ご家庭とともに時代に合わせたものにしていきたいと思えます。

## まとめ

- 考えが深まる話し合いのあり方の追究
- 充実した情報発信の継続
- 情報時代におけるメディアとの健康的な付き合い方の指導
- 自らの課題を意識できる家庭学習のあり方の共通理解

## 5 自由記述まとめ(4通)

保護者 (原文のまま)

- ・子どもたちにはきちんとした指導が必要だと思えます。子どもの自主性を重んじるとは聞こえがよいが、(まだ)未熟な子どもたちにそれを求めるということは、教師の怠慢としか思えない。
- ・(質問内容とは異なりますが…)複数子どもがいるため、上の子の先生はいいけど、下の子の先生は指導が足りない…という答え方をしました。良い先生との差がすごく感じられる年だと実感しています。
- ・お世話になっております。コロナ禍での行事等の対応ありがとうございます。  
運動会ですが、やはり9月の第3週目ですと、2週目に比べ、気温や天候が安定して、暑過ぎず最適です。来年度以降も熱中症対策のためにも、なるべく9月後半の開催をお願いします。
- ・362号線を子どもだけで渡っている子がいて、とても危ない。その子が渡るのを、一緒に渡ってしまって危ない。学校のルールとして、もう少し厳しく指導してほしい。